

基本情報



【年齢】
37歳
【出身地】
青森県青森市
【転出元】
青森県青森市
【前職】
農業法人
【活動時期】
R2.12～

協力隊に応募したきっかけ

山林が多くを占める田野畑村において、地域の特性を生かした放牧型酪農である山地酪農に魅力を感じたことがきっかけでした。

今後の抱負・任期後の目標

現在は、牛舎での飼育と一部放牧を実践している酪農家を中心に酪農家の作業を研修していますが、任期後に就農できるように、酪農家の皆さんとの関係を大切に、営農に向けて計画をたてています。

活動内容

●春の訪れを感じ、牛も大喜び

酪農家が放牧している牛たちも、どんどん山奥に進んでいく光景が見られるようになってきました。暖かくなり牛の喜びようは凄いです。急斜面の葉を食べたり、馬のように駆けたり飛び跳ねたりする牛もいます。軽自動車に向かってくるように感じて怖い時もありますが、新芽を無我夢中でパクパク食べる光景は、かわいくて仕方ありません。牛追いをすると、冬はのんびりな牛たちも早足に山をどんどん駆け上がっていきます。新芽を食べることは、牛にとって幸せなことなんだなあと思います。【広報たのはた2022.4号より】



●牛と一緒に山作業をしています

気温が上昇し、山の木々や畑にも緑が増え、草刈りなどで汗が出てくるようになってきました。冬に必要な薪を乾燥させるために、立木を早めに伐採するのですが、チェーンソーの音がすると、遠くにいた牛たちが行進を始め近づいてきます。お目当ては生い茂っている木の葉。伐採した所に一斉に向かってきて、木の葉を無我夢中でムシャムシャと食べる光景はとても面白いです。葉が付いている枝と付いていない枝とでは、枝払いの作業の労力が全く違うので、気の葉を食べてくれる牛にはとても感謝しています。まだ山作業は未熟者なので、安全な伐採作業や樹木の名前を覚えるまでには時間と経験が必要です。【広報たのはた2022.7号より抜粋】



●子牛が誕生。捜索・救助活動をしました

先日、放牧していた牛が山で無事にお産をしました。子牛と母牛が一緒にいると見つけやすいのですが、今回は母牛が一足先に下山したようで、子牛が迷子になってしまいました。しばらく捜索活動をしてると、林の木陰にひっそりとたたずんでいる子牛を発見。一緒に歩いてくれると下山しやすいのですが、生まれたてで足腰が弱い子牛には、軽トラックも入って行けないほどの急斜面は、まだきつみでした。担ぎ上げの下山も考えたのですが、生まれたてでも体重は40～50kgほど。下山するところには腰が悲鳴を上げそうなので、今回はソリを準備して子牛の救助に向かいました。下山途中、母牛の姿が見えると元気に立ち上がり、自力で母牛の元に戻った姿はとてたたくましいものでした。【広報たのはた2022.10号より抜粋】



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) k-nakanowatari@vill.tanohata.iwate.jp
(電話番号) 0194-34-2111